

『カクキューの八丁味噌を愛した著名人』
～ 久司 道夫（くし みちお） ～

1926年（大正15年）～2014年（平成26年）

和歌山県出身。マクロビオティックの世界的権威。久司財団会長。イーストウエスト財団会長。日本オーガニック&ナチュラルフード協会(JONA)初代会長。

第二次世界大戦の惨劇を目にしたことから、世界平和達成と人間性の発展に生涯を捧げることを決意されました。

世界連邦主義者の南原繁や桜沢如一らの影響を受けて、1949年（昭和24年）渡米。平和問題は政治機構を超えて人類を健康と平和な人間性に進化させることが最も大切であるという考えのもと、偕子（アヴェリーヌ）夫人とともに自然食の普及と教育啓蒙活動に努めました。

米国初の自然食品店「Erewhon（エレホン）」を設立され、当社の八丁味噌も取り扱われました。

1977年（昭和52年）、マクガバン・レポート（米国上院に設置された栄養問題特別委員会の報告書）において久司マクロビオティックの食事法が称賛されました。

1999年（平成11年）、日本人で初めて、米国スミソニアン国立歴史博物館に殿堂入りし、クシファミリーコレクション（過去50年の業績を代表する各種出版物や研究資料、食品および文化資料）が永久保存されました。

カーター元大統領、クリントン元大統領、ジョン・レノン夫妻など、世界中の多くの著名人に食事指導をしてきたことでも知られています。

『久司道夫のマクロビオティック入門編』（2004年10月12日、東洋経済新報社発行）に「日本の伝統食が優れている点は『みそ汁』です」「使う味噌は伝統的な製法でつくられた長期熟成のものを使いましょう」とあります。

久司ご夫妻は八丁味噌の愛好家として知られており、当社には久司偕子からの注文の手紙が残されています。

最初の手紙は1957年（昭和32年）3月に書かれたもので、八丁味噌はすでに5年来のなじみで渡米してからも常に使用されていることや、八丁味噌が健康に必要欠くべからざるものだという言葉が綴られています。

また、久司道夫がニューヨークに開く小売店で八丁味噌のおろし商となることができると思う、という提案も記されています。

FOLD SIDES OVER AND THEN FOLD BOTTOM UP
MOISTEN FLAP WELL AND APPLY PRESSURE TO SEAL
NO OTHER ENVELOPE SHOULD BE USED

早川久右内商店
御中

一九五七年三月二十九日
ニューヨーク

久司借子

私どもハ食養療法によります菜食家
純生ナ食品を撰用して居ります。
八丁味噌もすでに五年來のなじみで渡米し
ましてからも一日大さじ一杯ほどの味噌をつ
ねに大切に使用して居ります。

先日も知人から三越で買つて下さつた八丁
味噌をいただき大よろこび致しました。今まで
は、東京都にあります眞生活協会より
送つていただいで居りました。

たいへん御めんどうと存じますが、貴商店より
直接発送していただくことが出来ませうか。
三越よりのものハさしわたし二十糎の樽につめて
ございました。万一直接お送り下さることが出来れ
ば、送料をこめてのねだんおしらせ下さいませう
に御願ひ致します。

ニューヨークに居ります八丁味噌の同志より注
文をとりまとめたいと存じます。

尚、もつと小さい樽のものと、主人もこの度ニ
ューヨークに二軒（あづま、ぎんざと称する）ギフトショ
ップをひらきましたので、ニューヨークのおろし商と
なることが出来ると存じますが。

◎まことに失礼な老婆心ですが、私どもハ防フ剤
入らない純生なもの、古いものをおねがい致したいと
存じます。何しろ私どもの健康に必要缺くべから
ざる八丁味噌ですのでよろしくおねがい致します。
又、八丁味噌によります、たまり醤油とか、味噌つけ
のようなもの（砂糖や化学品の入らぬもの）がございま
したら御ついでにおしらせ下さいませうに。

早川久右工門商店

御中

一九五七年三月二十九日

ニューヨーク

久司借子

私どもハ食養療法によります菜食家で
純生な食品を撰んで使用して居ります。

八丁味噌もすでに五年來のなじみで渡米し
ましてからも一日大さじ一杯ほどの味噌をつ
ねに大切に使用して居ります。

先日も知人から三越で買つて下さつた八丁
味噌をいただき大よろこび致しました。今まで
は、東京都にあります眞生活協会より
送つていただいで居りました。

たいへん御めんどうと存じますが、貴商店より
直接発送していただくことが出来ませうか。
三越よりのものハさしわたし二十糎の樽につめて
ございました。万一直接お送り下さることが出来れ
ば、送料をこめてのねだんおしらせ下さいませう
に御願ひ致します。

ニューヨークに居ります八丁味噌の同志より注
文をとりまとめたいと存じます。

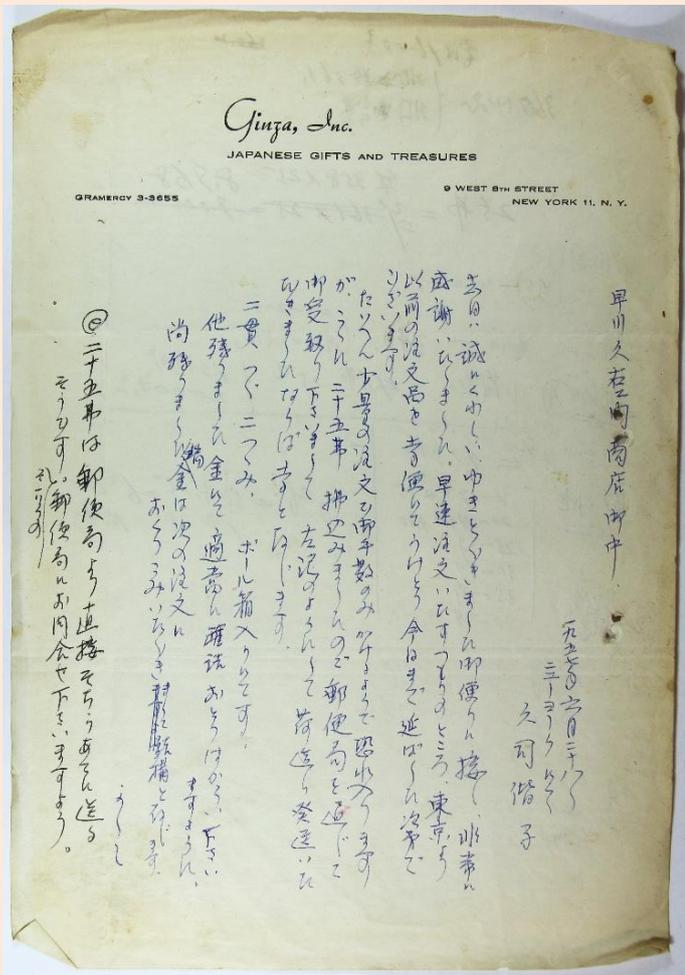
尚、もつと小さい樽のものと、主人もこの度ニ
ューヨークに二軒（あづま、ぎんざと称する）ギフトショ
ップをひらきましたので、ニューヨークのおろし商と
なることが出来ると存じますが。

◎まことに失礼な老婆心ですが、私どもハ防フ剤
入らない純生なもの、古いものをおねがい致したいと
存じます。何しろ私どもの健康に必要缺くべから
ざる八丁味噌ですのでよろしくおねがい致します。
又、八丁味噌によります、たまり醤油とか、味噌つけ
のようなもの（砂糖や化学品の入らぬもの）がございま
したら御ついでにおしらせ下さいませうに。

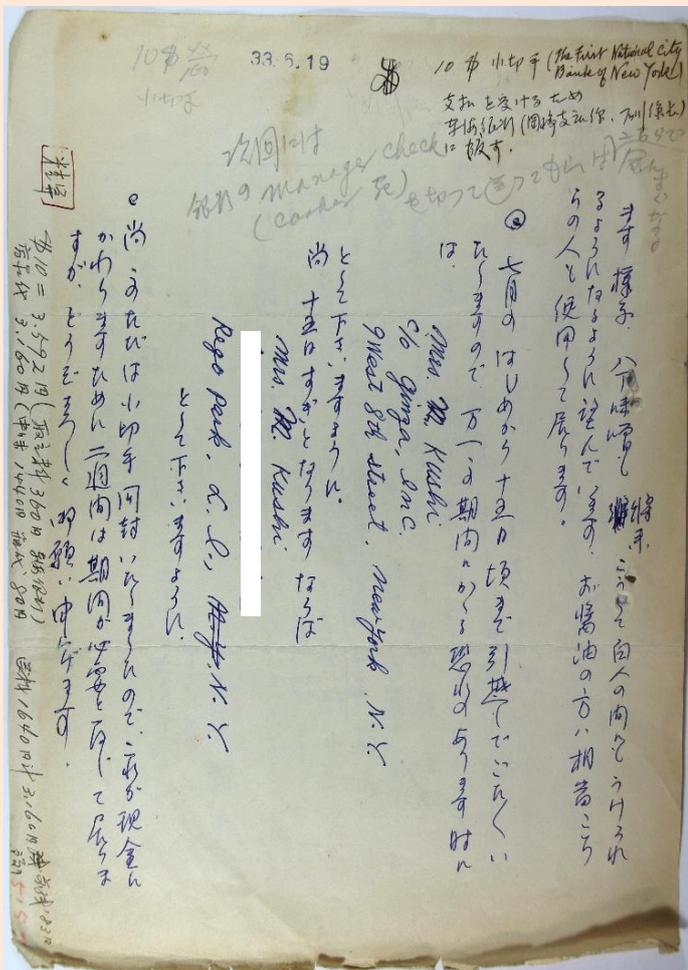
久司借子からの手紙（昭和 32 年 3 月 29 日）

上：手紙の現物

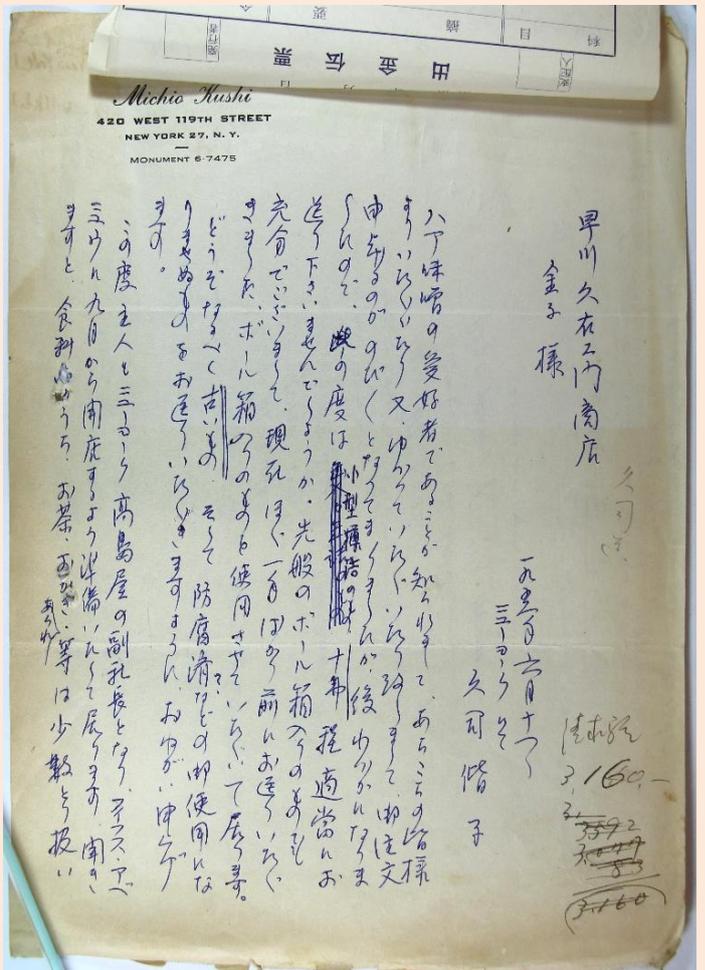
下：手紙の内容を翻刻したもの

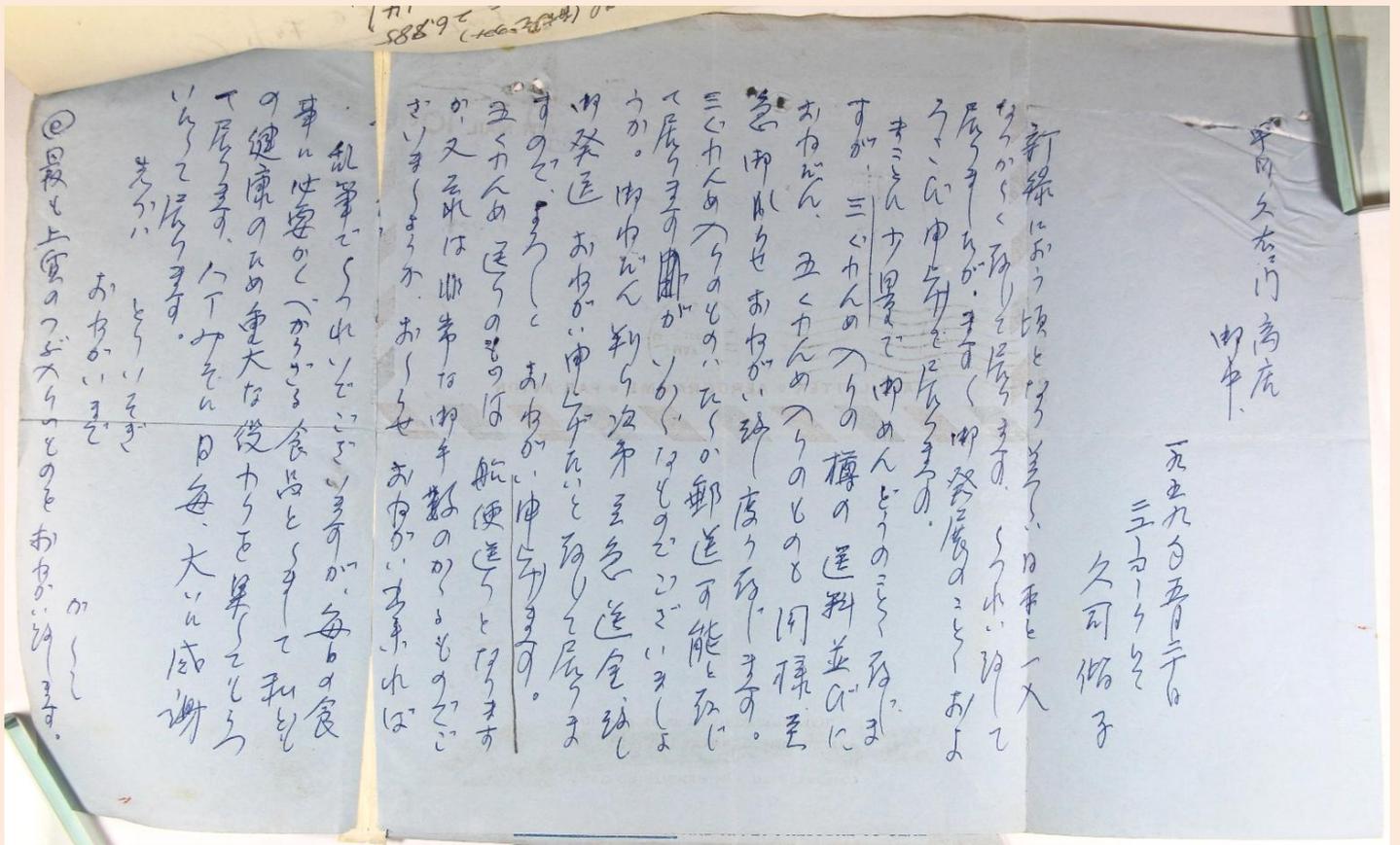


久司借子からの手紙 (昭和 32 年 6 月 28 日)



久司借子からの手紙 (昭和 33 年 6 月 11 日)





久司借子からの手紙 (昭和 34 年 5 月 20 日)

